

第1回 鳴瀬川総合開発環境検討委員会 技術的助言

日 時 : 平成28年2月9日(火) 13:00~15:00

場 所 : 場所: ホテルJALシティ仙台 2階ローズ(会議室)

【1. 委員会の設立について】

- ・設立趣意書(案) 資料-1、規約(案) 資料-2 について、了承を得た。
- ・公開要領(案) 資料-3 について、非公開に該当する議題の対応について次の意見があった。
- ・非公開に該当する議題があった場合、地名を省略し、暫定的にAペア、A種等、任意に位置や種名がわからないよう、非公開に該当することがなくなる工夫も必要である。
- ・非公開対応の場合は、最後にまとめて非公開にして論議する。
- ・資料の公開にあたっては、設立趣意書(案) 資料-1、規約(案) 資料-2、公開要領(案) 資料-3 を公表する。

【2. 環境影響評価の行程、対象範囲について】

- ・了承を得た。

【3. 環境影響評価方法書(案) について】

1. 総括的事項

- ・各分野で重要と思われる種で、他の分野の方と横並びの共通認識で、こういうものが担当分野の中では重要だという認識が重要。例えば、普通の重要種あるいは天然記念物とか、分野ごとの中で対応すれば良い等。委員会での共通認識が特に重要で、アセス審査でいろいろ問題になる、質問について、予め予期して対応する。
- ・動物は、冬眠中に水没するとそのまま死んでしまう。例えば、できるだけ試験湛水の時期は冬眠中を避ける、個体群全体として重大な影響があるかどうかは技術論になる。

2. 個別的事項

(1) 水環境

NO	意 見	回答及び対応方針
1	下流河川の調査範囲について、田川合流点までが妥当とする根拠として、全川の流況や水質等のデータを整理して示してほしい。対象とする鳴瀬川の特성에 応じて調査範囲を設定したということを示す必要がある。	頂いた意見を参考に、専門家より指導・助言を得ながら適切な対応を確認、相談した上で進めていく。

(2) 動物、植物及び生態系

NO	意見	回答及び対応方針
1	<p>ヤマネや爬虫類等、冬眠中に試験湛水を実施した場合には、逃げる事が出来ない。冬眠期間中の試験湛水は避けた方が望ましい。</p>	<p>頂いた意見を参考に、専門家より指導・助言を得ながら適切な対応を確認、相談した上で進めていく。</p>
2	<p>ヤマネは生息環境が面的に広がっており個体群への影響は大きくないと考えているが、湛水時のエスケープが保証されるよう、繁殖期や冬眠期間を避け、逃げ道を作りながら湛水してほしい。</p> <p>コウモリについては県内で初確認された種があるなど十分に調査されているが、移動性があることや大きな繁殖・冬眠集団は確認されておらず特別な対応が必要とまではいえない。</p>	<p>頂いた意見を参考に、専門家より指導・助言を得ながら適切な対応を確認、相談した上で進めていく。</p>
3	<p>底生動物も特別な対応が必要となる重要種はない。ゲンジホタルについては、追加調査で生息を確認する必要がある。</p>	<p>頂いた意見を参考に、専門家より指導・助言を得ながら適切な対応を確認、相談した上で進めていく。</p>
4	<p>クマタカの人工巣による保全対策はまだやり始めたばかりであり、成功例は2例ほどしかないが、今後有用と考えられる。サシバにも人工巣による事例があるので保全対策が可能であると考えられる。</p>	<p>頂いた意見を参考に、専門家より指導・助言を得ながら適切な対応を確認、相談した上で進めていく。</p>
5	<p>スハマソウ、ヤマシャクヤク、ノビネチドリについては、移植は実績も多く比較的容易である。カワラサイコは雪崩地形等に生育する。雪崩地形は周辺にも多く分布している。改変が不可避であるのなら移植もやむを得ない。</p>	<p>頂いた意見を参考に、専門家より指導・助言を得ながら適切な対応を確認、相談した上で進めていく。</p>